

流域を支えるクラウドファンディング カワサポ

一般社団法人ClearWaterProject

はじめに

私たち一般社団法人ClearWaterProject (CWP) は、全国の河川や水辺を舞台に、様々な活動をしています。

集ったメンバーは、サーフィンが好きな者、釣りを愛する者、ガサガサで生き物を捕獲して調べるのが得意な者など、十人十色の趣味や嗜好を持ったメンバーが集っています。

メンバーに共通するのは、ITノウハウも併せて持っていること。そのノウハウを環境や水辺に活かして、水辺や水辺空間をもっと良くしていけないだろうかと一般社団法人として活動をはじめました。そのため、CWPでは、IT+水辺・環境をキーワードに様々な事業を展開しています。

その中のひとつが、今回の受賞対象となった「流域を支えるクラウドファンディング カワサポ」です。



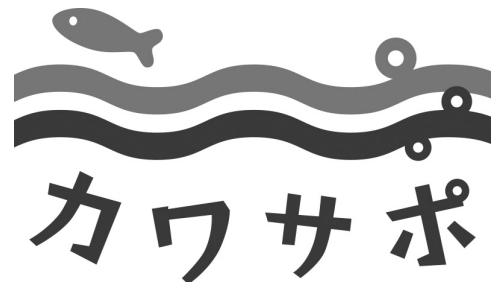
個性豊かなメンバー 2019年3月時点では総勢17名

カワサポについて

・カワサポの概要

一言で言えば、カワサポは、河川や環境活動に特化したクラウドファンディングのサービスです。

私たちCWPでは、全国・全世界で、水や川などの環境に関わる活動をしている団体や個人向けにカワサポをサービスとして提供しています。



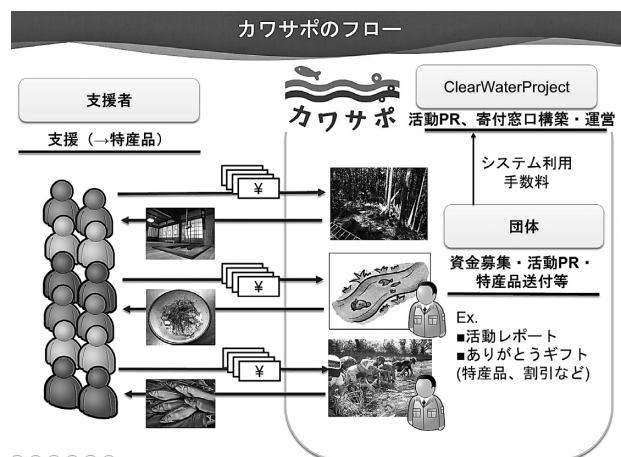
<https://www.kawa-supporters.net/>



ぜひ「カワサポ」で検索してみてください

そうした活動をしている人たちが、活動を行う上での資金協力や広報を、インターネットを通じて行いたいときに、カワサポを利用していただきます。

カワサポを通じて、活動資金の支援を呼びかけると、それに呼応する全国の方が資金援助を行います。そうして集まった金額から、支援者への返礼品等・手数料を差し引いた額が個人や団体の活動資金になります。



カワサポの仕組み

世の中にクラウドファンディングは種々ございますが、河川や環境活動に特化したそれは、カワサポだけではないかと考えています。

個人や団体がカワサポで資金獲得をするには、まずカワサポに団体登録をしてもらいます。現在その登録数は約30（2019年3月時点、登録準備中含む）で、年々増加しています。

・カワサポでの資金獲得方法

カワサポで資金獲得していくには、2つの方法があり、ひとつは団体そのものに継続的に支援する「団体支援」、もうひとつは短期的なプロジェクトに対して資金援助する「プロジェクト支援」で、いわゆるクラウドファンディングといえば、プロジェクト支援の方です。

・団体支援

カワサポは団体支援も重要視しています。河川や環境活動というのは、一朝一夕に結果が出るものではないし、自然相手のため毎年同じことが通じるわけではなく、継続的な取り組みは欠かせません。そのためには、『継続的な活動資金』が非常に重要で、それを可能にするのが、カワサポに登録することで生まれる、団体そのものへの支援です。

支援された側も、費目問わず使えるお金になるので、支援する・受ける、互いにとって非常に有益なお金と言えると考えています。

川と言うのは、非常に文化的な物であり、郷愁を誘うものでもあります。

そのため、「昔遊んだ川がいつまでも残ってほしい」「その活動が後世に残るように」など、支援者の気持ちが、継続的なお金という形に変わって、カワサポ登録団体に届けられます。

そうして集められた資金により全国の河川や環境が、継続的に、少しずつ良くなってほしい、それが、私たちCWPがカワサポに込める、ひとつの大きな思いです。



全国の川に子どもの笑い声が響く社会になれることを目指して

・プロジェクト支援

短期的なプロジェクトによる支援呼び掛けでは、これまで例えばこのようなプロジェクトが立ち上がりました。

■子どもたちが生き物について学ぶ、自然博物館を作りたい

■高校生や大学生による、次世代の水を守る提言を国連に届けたい

■手肌の荒れを軽減させるとともに、水質を保つ洗剤を作りたい

どれもが、河川や環境に関わるものばかりで、これまでカワサポで立ち上がったプロジェクトの成功率（目標金額以上の支援を集めること）は、82%を誇ります。（2019年3月時点）

つまり、10件のプロジェクトのうち8件以上は目標金額以上の金額を集めることができていることになり、この数値は一般的なクラウドファンディングサイトと比べても非常に高いのが特徴です。



自然博物館を作るプロジェクトには目標以上の112%の支援が集まりました

そこに、昆虫、ヘビの抜け殻、卵、ハチの巣など様々な生き物の標本を展示しています。展示の仕方も工夫を凝らしてその生態がよく想像できるように心がけています。



これから子どもたちと一緒に空きケースにどんどん、標本を作って展示していきたいと思います！
支援額を用いて、生き物の標本ケースを設置することができました

・カワサポだからこその特徴

クラウドファンディングの多くは返礼品を期待して支援するということが多くみられますが、カワサポの場合はむしろ逆に、返礼品は不要のためその分の金額も活動に活かしてほしいという要望が良く見受けられます。

これはどういうことかということ、思い入れのある川や水辺などを良くしていこうとしている、次の世代に伝えようとしている団体や人材に対して、自分ができない分の思いを重ねているということだと思っています。

「生まれ育った地域の、あの川が、あの環境が、いつまでも続いてほしい」

「自分が遊んだ、関わった川や水辺だからできた、あの素晴らしい体験を次の世代にも」

そうした思いのやり取りまでも見ることができるのはカワサポが、河川や環境に特化したクラウドファンディングだからこそだと思い、川や川で遊ぶことが大好きなメンバーで取り組んでいる私たちとしては、とても嬉しい限りです。



カワサポでは全国で活動する団体や個人を集めた研修会などを実施して、みんなで良い水辺・環境を残していける方法を考える活動もしています

・災害からの復旧にもカワサポ

これまで全国の様々な地域で、趣向を凝らしたプロジェクトが立ち上がってきましたが、2016年にカワサポで立ち上がった、プロジェクトのひとつは、少し違いました。

北海道 十勝川流域で活動する団体がカワサポで支援を呼びかけたのは、水害復旧のための活動資金でした。

多くのプロジェクトが「〇〇をしたい」ということですが、大雨による水害で被害を受けた場所の復旧活動のための資金をカワサポで呼びかけたことは、新しい

カワサポの価値や意義を照らしてくれたものだと考えています。

昨今、異常気象等、種々の影響により、大雨等による被害が各地で頻発しています。

そのときには、やはり川の増水や氾濫も多分に影響していることがわかります。だからこそ、その被害から立ち上がる際の資金をクラウドファンディングで、カワサポで、全国に呼び掛けるという取り組みは、カワサポの在り方にとって、深く考えさせられました。

実際、この北海道の団体の呼びかけには、北海道民だけでなく、他所からも支援が集まり、目標額以上の資金をお届けすることができ、活動をするうえで必要な道具や消耗品の購入などに充当されました。



水害により多くの立木が活動場所に流れ込み活動できなくなっていました



迅速な復旧活動にカワサポを活用していただきました

団体の担当者に「なぜカワサポを利用しようと思ったのか?」お話を伺うと2つの理由をお聞きすることができました。

1つは「自分達の活動場所を復旧するための資金が欲しいというのはもちろん。通常なら、市・道・国などからの資金を待つことになるが、それはいつになるのかわからないので、行政に頼らずに、自発的に資金を集めて早い復旧を目指したかった」ということをおっしゃっていました。

確かに、補助金等はいつになるかわからないとよく

聞きます。自分達で自発的に復旧のための資金を獲得していこうという意思を持って取り組まれた、この団体の取り組みには、サポートする側の当方も深い感銘を受けたとともに、カワサポの新しい使い方のモデルを気づかせてくださった感謝の念も抱きました。

2つ目は、「北海道でこういう被害が出ているのだということも知ってもらいたい、そしてその復旧を地域の住民たちの協力と連携により実現させる。」

と、おっしゃっていました。

確かに、メディアでは一部の報道しかされていないというのも現実で、川というものが文化や郷愁を象徴するものだからこそ、愛する川の現状を全国の皆さんに知ってもらいたい、愛する地元の人たちと一緒に、という思いを抱かれたのだらうと思います。

そう思うと、カワサポが担えることは、資金獲得だけではないことでも、まだまだあるのだらうと思います。

事実、この復旧には北海道以外からの支援も集まり、実際の復旧作業には団体の皆さんが地域住民と協力して取り掛かったそうです。

昨今頻発している、大雨や川の氾濫などによる災害、そして防災、これらの分野にもカワサポができること、存在する意味というのは、もっともっとあると思うので、登録団体や関係者の皆様のお知恵やお考えをいただきながら、もっと良い未来を開拓できるように、一同取り組んで参ります。

考えているのは「流域を支える」ということ

上記の水害復旧によるプロジェクト支援でもそうですが、補助金というものがどうしても行政区で分けられてしまうというのは事実だと思います。

一方で、河川というものはいくつもの自治体をまたぎ、多くは都道府県をまたいで、流れているものです。

そうすると、河川をとらえるときに重要なのは、行政区というよりも「流域」ではないかと考えており、カワサ



迅速な復旧活動にカワサポを活用していただきました

ポも単なるクラウドファンディングではなく『流域を支えるクラウドファンディング』としています。

たとえば、全国の河川では、源流域や上流域に比べて、中下流域や河口付近の方が、人口が多い、都市化が進んでいるのが現状です。

そうするとどうしても、源流域・上流域のことは忘れられがちになってしまうのですが、飲料水をはじめ、快適な生活のためには、源流域や上流域の環境が保たれることは非常に重要で、同じ河川沿いに暮らす人々が支えあえるような関係性を構築していけないだろうか考えたのがカワサポの原点です。

例えば水害復旧も、自分の家の目の前の川は問題なくても、その川の上流では被害が起きているとなれば、同じ河川に集う者同士、支えあう関係性によって、より良い社会を構築していくことができるのではないかと、ということです。

支えあう関係性というのは、資金提供だけではないと思います。資金が出せる人には出して支えていただきたいし、起きている現実を知る、知ったうえで何ができるのかを考えるなど、関心を抱くなどという“意識する”という支え方もあると思います。

水害が起きたのが北海道でも、それはいつ自分が暮らす地域の川で起きるかはわかりません。決して、対岸の火事ではなく、起きている事実を受け止め、自分が暮らす流域はどうなっているのだらう、何ができるだらう、と“意識する”ことも、重要なことだと考え、カワサポはそこを大切にしていきたいと考えています。



カワサポの支援は北海道以外からも集まり、実際の活動には呼びかけに応じた地域の住民と一緒に行動することができたそうです

CWPの紹介

カワサポを運営しているCWPは、先述したように、自分達が持つITの技術やノウハウを通じて、水辺や環境をもっと良くしていきたいという思いを持って活動しています。

カワサポ以外にも、例えばこうしたサービスも提供しています。

川遊びマップ

<https://www.kawa-asobi.net/>

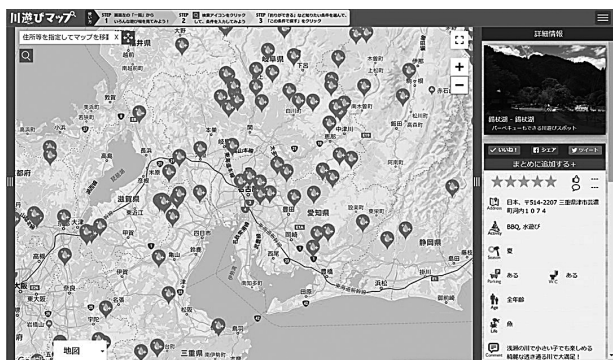
【川遊びマップ】

もともと川が好きでメンバーが多いCWPスタッフの思いは「川で遊ぶ人を増やしたい」「川っておもしろいということをもっと伝えたい」ということです。

そこで作ったのが、川遊びマップで、これは、全国の、川遊びできる場所をマップ上で探すことができるアプリ・サービスです。



川遊びマップはWEB、アプリどちらでも見ることができます



全国津々浦々たくさんの川遊びスポットが掲載されています

川遊びをした人は自分が遊んで楽しかった川のスポンサーや内容を投稿して、川遊びをしたい人はその投稿を参考に今度行ってみようという場所を探することができます。

遊ぶことを通して、川に触れる機会を増やしたいという思いです。



<https://www.tsuritickets.com/>



つりチケはWEB、アプリ両方で見られ、全国の漁協の遊漁券を購入できます

【つりチケ】

現状、遊漁券の多くは釣りをする場所へ行って、個人商店やコンビニで購入するということがほとんどです。しかし、遊漁券を販売している場所がわからない、購入場所が遠い、購入場所が開いていないなどの理由から結果として無券遊漁者を生み出してしまう問題（漁協にお金が入らず、河川保全ができない等）も起きていました。

そこでつりチケは、遊漁券をインターネットで販売／購入できるプラットフォームを整えることで、その問題を解決し釣り人も漁協も、互いがハッピーになって、持続的な漁協経営を支える仕組みとして提供しています。

全国の内水面漁協の多くは高齢化などの問題により今後が不安視されていますが、適正な遊漁料収入が得られる、つりチケの仕組みが浸透すれば、漁協の経営安定化により、全国の河川環境の保全と持続性にも寄与できると考えています。

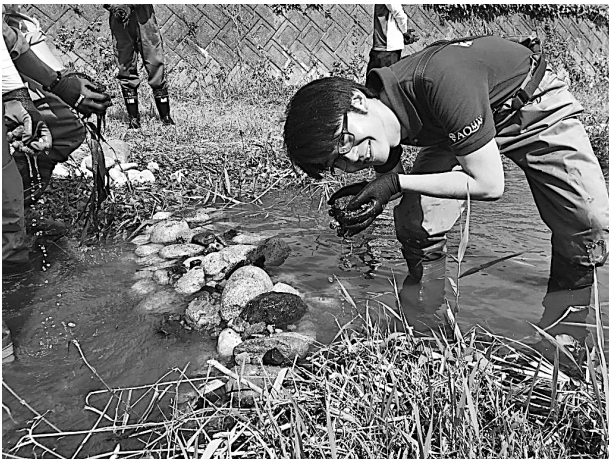
どちらのサービスも、CWPメンバーが、川が好きだからこそ生み出したものだと思います。自分が愛する川というものが、いつまでも残っていてほしいし、共有したいからこそ、CWPにできることは何かを考えたら、こ

これらのサービスの提供に繋がっていきました。

ひとりでも多くの方が、この思いに共鳴して、本当に素晴らしい、日本各地の河川や水辺が残っていく、良くなっていく、次の世代も楽しめるような社会になっていけると嬉しいです。



売だけでなく漁協と一緒に釣り教室などを行い、川遊びを楽しむ人を増やす取り組みもしています



普段はパソコンとにらめっこするメンバーも川に出て活動します

今後の展開

今回、未来開拓賞を受賞することができたことは本当に嬉しい限りで、創業以来取り組んできているIT×水辺・環境という事柄をもっと深めて、より良い未来を開拓していきなさい!という激励をいただけたものだと解釈しております。

各地で頻発する水害、漁協の高齢化や釣り人口の減少、川と人の距離が遠くなっている…など水辺や河川を取り巻く環境は明るいことだけではないとは思いますが、だからこそ、日進月歩で進化する現代のデジタル社会において、ITに強みを持つ自分たちが、いま一度自分たちができること、自分たちにはかできないこと、周りの皆さんが居るからできること、をメンバーで考えて、その名に恥じぬような“未来を開拓する活動・サービス”を今後も提供していきます。

この度の受賞は、カワサポの登録団体や支援者の皆様をはじめ、これまでのCWPの活動やサービスに多大なるご理解とご協力をいただいた皆様のおかげであると考えております。

この場をお借りして、一同深い感謝を申し上げます。今後も、ともに手を繋いで、明るい未来を開拓していきましょう!



ITで、水辺と環境の明るい未来を開拓できるように努めてまいります!

一般社団法人ClearWaterProject